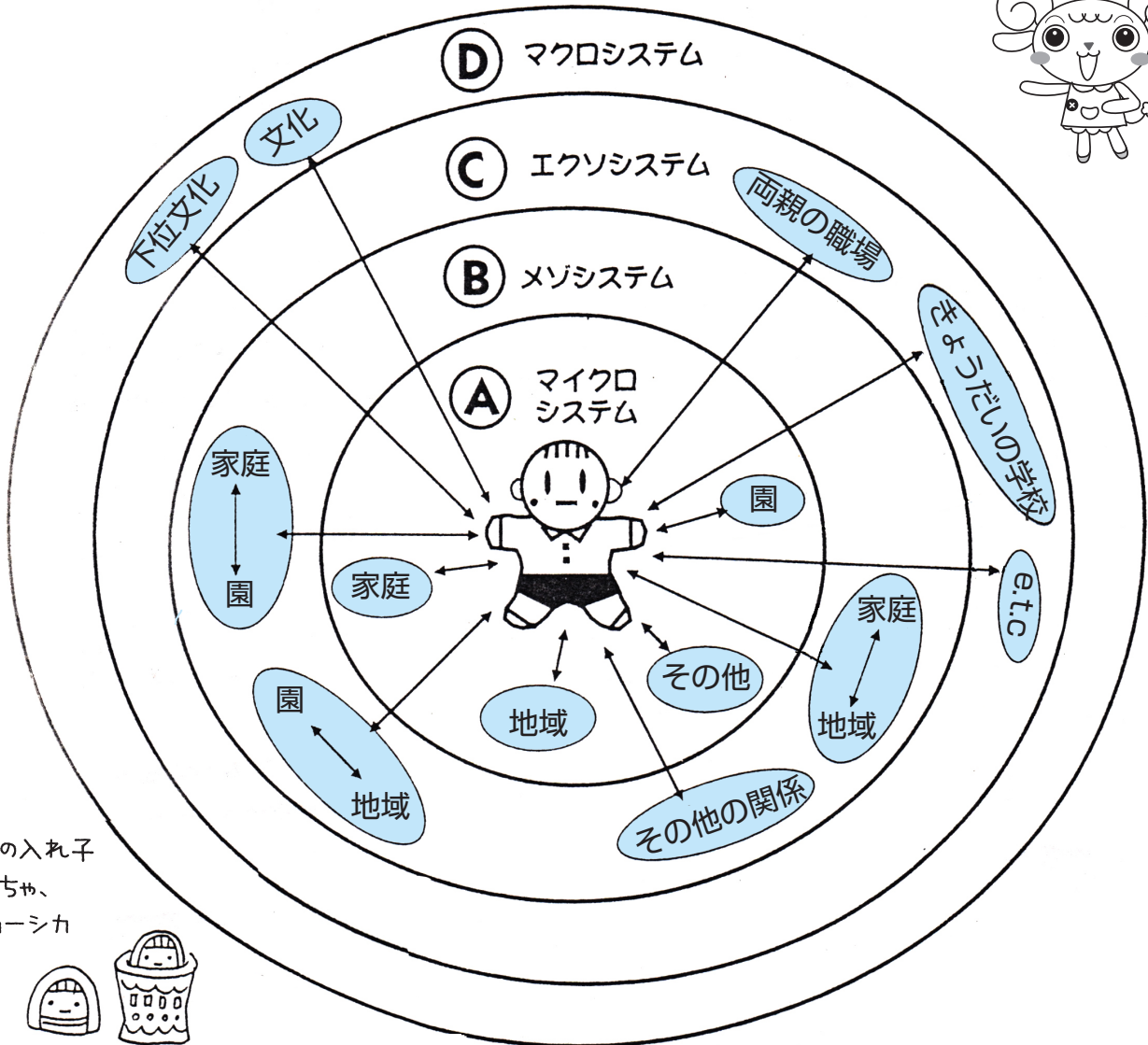


図説 生態学的システム理論 (マトリョーシカ構造)

★ブロンフェンブレンナーは、それまで「人」に集中していた発達の研究を、「人とシステムの複雑な相互作用」で考えることを提案しました。生態学とは生物と環境を相互作用で見る学問。それを応用して理論化しています。楕円内の「システム」が、発達しつつある子どもと相互に影響を与え合い、子どもはその影響を通して発達するとします（この場合のシステムは、ある集団の中の行動や習慣、ルールなどの「活動・生活の様式」のこと、そのシステムを「人をとりまく環境」ととらえると、理解しやすくなるかと）。



ロシアの入れ子
のおもちゃ、
マトリョーシカ



参考文献「人間発達の生態学」

U・ブロンフェンブレンナー (川島書店)

この解説は1999年に作成、2018年にリメイク。
1999年にはさらに、ブロンフェンブレンナー (ソ連出身アメリカの発達心理学者 1917- 2005) によってこれらが時間の経過とともに変わるとい
う視点が加えられているそうです。

★環境システムはマトリョーシカのように入れ子状態になっています。

勘違いしやすいのは、単に、「順にスケールの大きい環境がかぶさる」という意味にとらえてしまうこと。本来は、少なくともA→Bにおいて関係性が複雑化しているさまを表してます（双方向の矢印がそれを示す）。

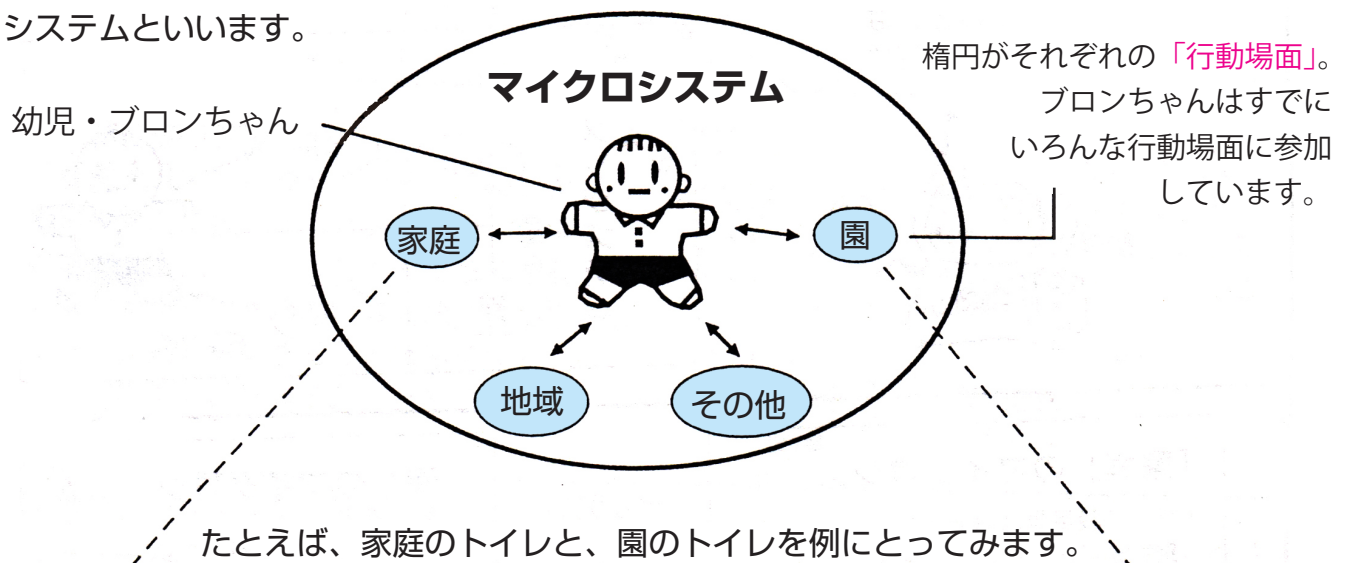
ここから、マイクロ、メゾ、エクサ、マクロ、各システムについての説明を試みます。今回は、「人はいろんな「行動場面」の影響を受けてるね」「だから、改善が必要なら連携や、それぞれのシステムの変容があるんだね」という点が、理解の落としどころです。



注:「トイレ」の話を例にしますが、『人間発達の生態学』にトイレの話は出てきません。

A・マイクロシステム

<定義>家庭や園など、子どもが直接的に関わる場面(子どもとシステムが相互作用する場面)を「**行動場面**」といい、その「行動場面」で子どもが経験する活動、役割(乳児、保育教諭、友達など)、対人関係(他の子と同じことをしている、個別のことをしているなど)の様式をマイクロシステムといいます。



「家庭」という行動場面

- ・暗くて殺風景なトイレ
- ・ドアを開けたまま入れる
- ・ママが近くにいる **「家庭」のシステム**

「園」という行動場面

- ・明るくてきれいなトイレ
- ・ドアを閉めて入るよう指導されている
- ・1人で行く **「園」のシステム**

●これら家庭と園という行動場面の各のシステムから影響を受けているブロンちゃん。逆に、ブロンちゃんが、その行動場面に影響を与えることもある。(相互作用)

ママ、トイレ怖い。開けて入っていい? ↔ どうぞ。

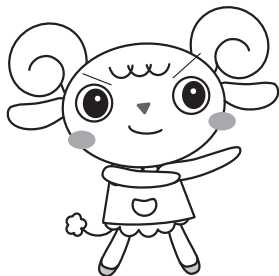
ブロンちゃんの一言で、家庭のトイレに行く様式(システム)が変容。

B・メゾシステム

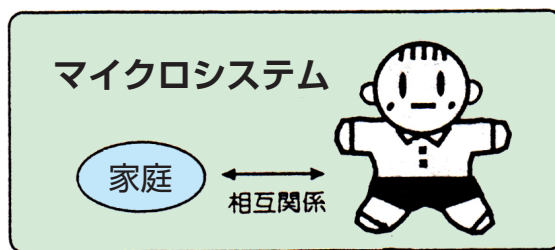
<定義>家庭や園など、子どもが直接的に関わる「行動場面」間の相互関係からできるシステム。
マイクロシステムのシステムに当たる。

●未就園児だったころ、ブロンちゃんは「家」という行動場面のマイクロシステムとだけ、関係していたとします。

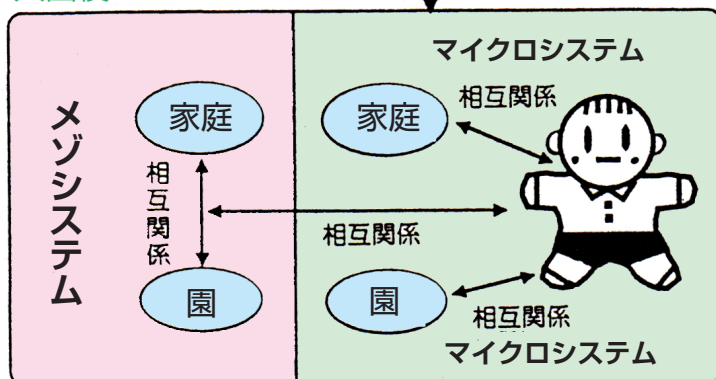
入園することでそこに「家」と「園」の相互関係から、**はじめてメゾシステムが形成**されます。



入園前



入園後



「家庭」のマイクロシステム

- ・暗くて殺風景なトイレ
- ・ドアを開けたまま入れる
- ・ママが近くにいる

「園」のマイクロシステム

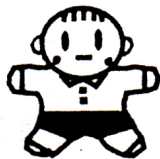
- ・明るくてきれいなトイレ
- ・ドアを閉めて入よう言われている
- ・1人で行く

相互関係

影響

さらに影響

行動場面が増えるほど、関係性はどんどん複雑化します。



メゾシステム

- ・トイレはできるだけドアを閉める
- ・ママがいないときは1人で行く
- ・明るくても暗くても入る

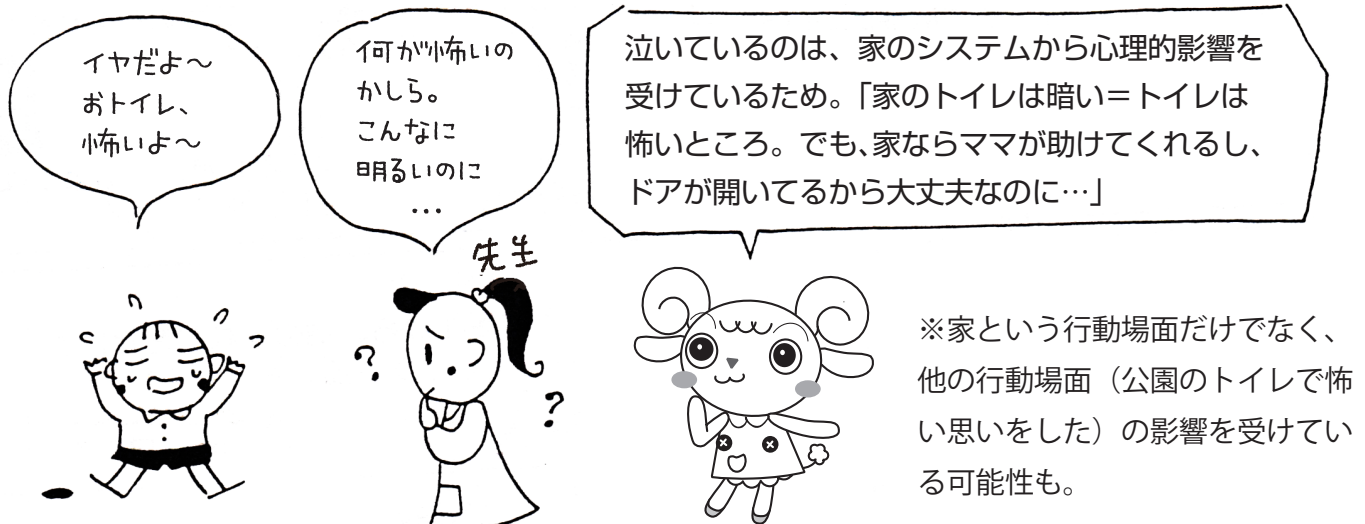
さらに影響

●もし、ブロンちゃんがこのメゾシステム↑に適應できれば、他の行動場面（たとえば公園など）でも対応できるようになる。これが発達。

ところが、家庭と園のシステムのギャップに混乱し、園のトイレにすら行かなくなることが起こりうる。



園で、トイレに行きたくないと泣いているブロンちゃん



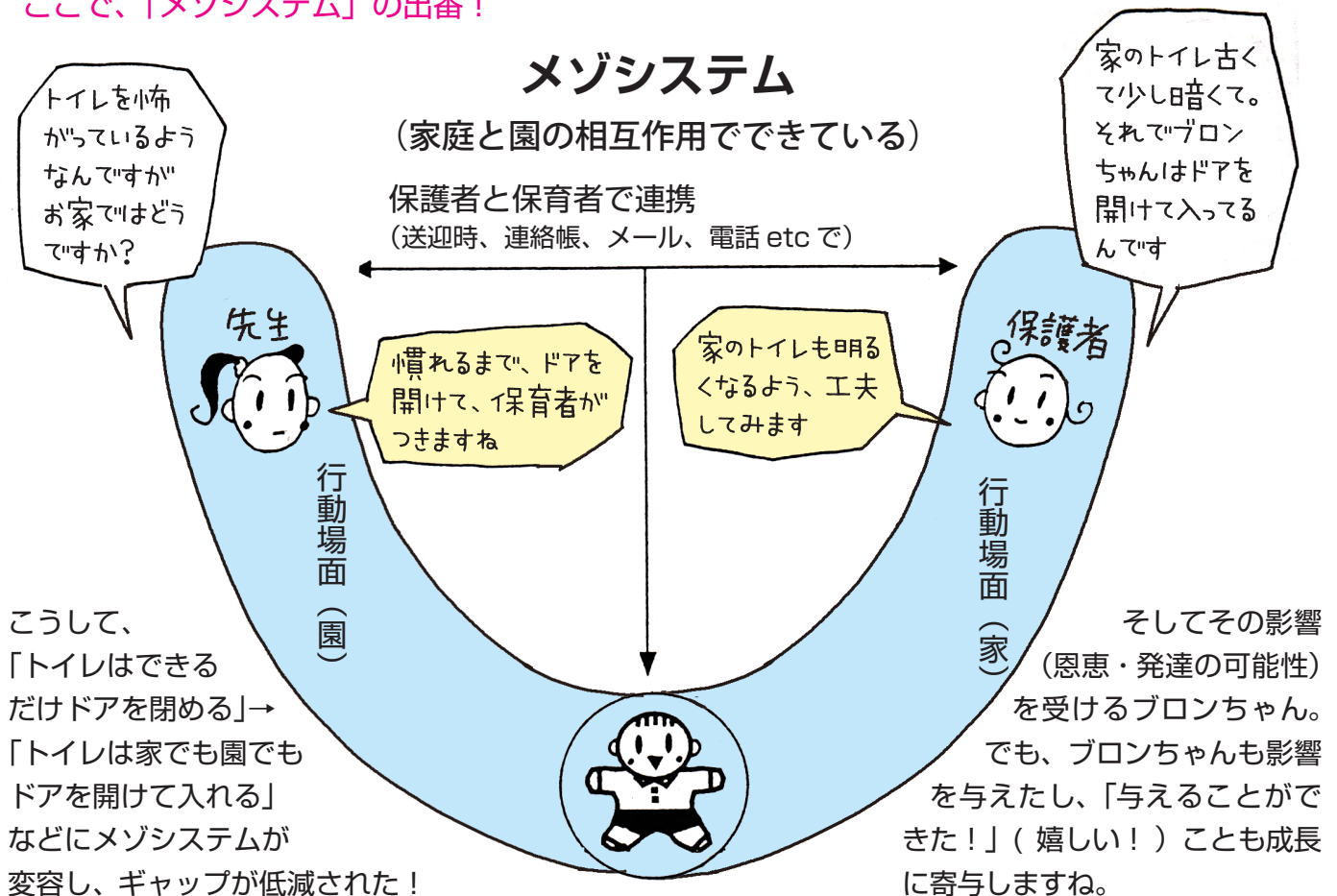
『人間発達の生態学』（p.25）には、「環境がその場にいる人々にとってどんな意味をもっているかを考慮せず…環境の客観的性質からだけで行動を理解することは不可能」（レヴィン『応用心理学雑誌』）とあります。



つまり、「なぜ怖いのか」は、様々な行動場面での心理的な影響を考えてみる必要があるということ。

←ブロンちゃんにはお化けのすみ家に見えている。

ここで、「メゾシステム」の出番！





2つ以上の行動場面の相互作用からなるのがメゾシステム。その機能についてプロフェンブレンナーはいくつかの仮説を立てています。前ページに関わる仮説の1つを紹介すると→

仮説 34 (要約)

メゾシステムの行動場面は、2つの行動場面に関わる人々（先生や親など）に、**相互信頼、肯定的方向付け、行動場面間の目標の一致、「子どものため」を意識した協働があるとき、改善する。**

C・エクソシステム

<定義>その子が直接参加していない行動場面だが、他の人を介して、その子の行動場面に影響を与えるシステム。たとえば…

例



影響



影響



D. マイクロシステム

<定義>マイクロ、メゾ、エクソの形態や内容における「一貫性」を示すシステム。国の民族や文化、下位文化などがそれにあたる。

たとえば日本のトイレはドアがあって鍵が閉まるが、中国ではドアのないトイレがあるらしい。日本の「ドアがある」というシステムが家にも園にも学校にもあって、それがブロンちゃんにも影響しているんですね。



※ブロンフェンブレンナーのこの理論から、「子どもがわがまま」「親のしつけが悪い」「先生の対応が不適切」ではなく、現象を子どもと様式との相互関係で見るという視点から、現土場で(より)明らかにされています。

文責：大枝桂子